

ありがとうございます。

平成23年5月20日、

義母が事故を起こしました。

対向車が直進しようとしていた所、  
義母が右折しようと交差点に進入し、衝突しました。

義母はエアバックが開いて、自分が事故を起こしたと始めて気づいたそうです。

この事故によって義母は脇腹の痛みを訴え、相手の方は首の骨を折る重症を負われました。  
少しでもタイミングがずれていたら、どちらかが、もしくはどちら共が命を落としていても  
可笑しくない状況でした。

しかし、お正月に頂いた義母の「ご守護札」で「ご守護仏」の  
「千手観音さま」の蓮の台座の一部(かなりの部分…)が欠けると言うお知らせを頂き  
唯先生の「お印」で 封じ込めてご祈願...下さったお陰で、双方とも護って頂いけたと  
心底感じました。

義母には「ご守護札」を手渡す時、唯先生が  
「何かのお知らせです。でもちゃんと祈願していますからね、でも忘れないで下さいね」と  
仰った メッセージを 伝えていました。  
義母は忘れていませんでした。しっかり受け止めていました。

本当に護って頂いて良かった、お礼をお伝えしたい、と言う事で  
安楽寺のご縁日にお参りさせて頂き、私たち夫婦、だけでなく  
義母にも聖天さまとのご縁を結んで頂ける事になりました。

約一ヶ月が過ぎましたが、義母の脇腹痛も幾分か和らぎ、相手の方も、  
院内を歩けるまで回復されつつあるそうです。

お守り頂けたこの「奇跡」は 神仏かみさまに 私たち夫婦の 首根っこを掴まれ  
最終通告として見せて頂いたものです。

私は信じるという「基本的な気持」を忘れていました。  
言葉が見あたらないほど、愚かです。  
やっと気がつきました。

本当に申し訳ありませんでした。

末席、外野席、野次馬席でも構いません  
神仏さま、唯先生、を 見つめて行かせて下さい。

今までしてきた過ちは消えませんし、謹慎中である事に変わりはないと  
心得ています。醜い自分を抱え、再度の覚悟、決めました。  
掘った穴ボコは、とてつもなく大きいです。  
外れた道は、戻るのに果てしなく遠いです。

穴ボコが埋まるのか、本道に戻れるのか、どこまで出来るか  
分かりませんが、それでも、前を向いてやって行きます。

この度のお計らい、お護り頂きました事、本当にありがとう存じます。

さゆり 拝

唯心からの追伸...です。

6月16日...ご縁日に

お義母さんとお孫さん(さゆりさんのお子さん達)が...お参り下さいました。

さゆりさんは...謹慎中の為...(決まり事は...厳しくて)お車の中でした。

少し遅い時間でしたので...ご縁日にご奉公の方々が「天堂」で  
ご一緒にお話を聞かせて頂きました。

やはり...当人が話されること...は 臨場感もあり...心に響くものですね  
どなたも感動の面持ちでした。

こうしていろんな方の本当の体験を聞かせて頂けること...

とても幸せなこと...です。

ありがとう存じます。

23年8月吉日 唯心 拝